

都城市民会館設計

菊竹 清訓氏(きく

たけ・きよのり)建築家)昨年12月26日、心不全のため東京都内の病院で死去、83歳。福岡県出身。葬儀・告別式は親族のみで済ませた。後日、お別れの会を開く予定。

早大卒。竹中工務店などを経て53年独立。

自邸「スカイハウス」

(東京)で注目された。

有機的に代謝する都市

を提唱する思想集団

「メタポリズム」を結

成。「出雲大社庁の舎」

(島根県)で芸術選奨

文部大臣賞などを受賞

した。

日本建築士会連合会

名誉会長。代表作に江

戸東京博物館、川崎市

市民ミュージアム、島

根県立美術館、都城市

民会館など。70年の大

阪万博でエキスポタワー

を設計。05年愛知万

博総合プロデューサ

。著書に「代謝建築

論」など。

南日本新聞 2012.1.6

菊竹清訓さん死去

83 歳

建築家 萩市民館、九州国博



日本を代表する建築

家で、前衛的な建築運動「メタポリズム」(新陳代謝)をけん引した菊竹清訓(きくたけ・

きよのり)さんが昨年12月26日、心不全のため死去した。83歳。葬儀は親族だけで済ませ

た。後日、お別れの会を予定している。福岡県久留米市生まれ。早稲田大建築学科

卒業。1958年に完成した東京都内の自邸「スカイハウス」は住居部分が空中に浮かぶ大胆な造形で近代住宅の傑作とされる。60年、建築家の故黒川紀章さんらとともに「メタポリズム」グループを結成。有機的に成長する海上都市計画などを発表した。63年「出雲大社庁の舎」で日本建築学会賞、79年には毎日芸術賞を受賞し

た。国家的プロジェクトにも多く関わり、70年の大阪万博でエキスポタワーの設計、05年の愛知万博では総合プロデューサーを務めた。江戸東京博物館や島根県立美術館なども手がけた。日本建築士会連合会名誉会長。

九州・山口・沖縄では、75、76年の沖縄海洋博で海上都市「アクアポリス」の空間プロ

デューサーを務めたほか、都城市民会館(宮崎県都城市)、萩市民館(山口県萩市)、北九州メディアドーム(北九州市)、九州国立博物館(福岡県太宰府市)などを手がけた。

毎日新聞 2012.1.6

メタポリズム主導の建築家

菊竹清訓さん死去

83 歳



戦後の日本を代表する建築家で、海外にも影響を及ぼした建築運動「メタポリズム」

をリードした菊竹清訓（きくたけ・きよのり）さんが昨年12月26日、心不全のため東京都内の病院で死去していたことが5日、分かった。83歳。福岡県出身。葬儀・告別式は親族のみで済ませた。後日、お別れの会を開く予定。

早大建築学科卒。竹中工務店、村野・森建築設計事務所を経て1953年独立。58年、鉄筋コンクリート造りの居住部分を壁柱4本で支えた自邸「スカイハウス」（東京）で注目された。

60年、有機的に代謝・成長する都市や建築を提唱する思想集団「メタポリズム」を故黒川紀章さんらと結成。その

思想に基づき、「出雲大社庁舎」（島根県）が84年に芸術選奨文部大臣賞などを受賞、出世作となった。

都城市民会館、久留米市民会館（福岡県）、江戸東京博物館、川崎市市民ミュージアム、島根県立美術館、九州国立博物館など公共建築を多く手掛けた。70年の大阪万博でエキスポタワー、75年の沖縄海洋博でアクアポリスを設計。2

005年愛知万博など博覧会のプロデューサーも務めた。00年のユーゴスラビア・ビエンナーレで「今世紀を創った世界の建築家100人」の一人に選ばれた。「代謝建築論」など著書多数。

伊東豊雄さん、長谷川逸子さんら次世代の建築家を育てた。米国建築家協会特別名誉会員。日本建築士会連合会名誉会長。

京橋日日新聞
2012.1.6

故菊竹清訓氏

九州各地に印象的建築

関係者の悼む声相次ぐ

建築家菊竹清訓（きくたけ しみづみ）さん(83)は、九州各地にも斬新で印象的な建築物を数多く残した。訃報が伝わった5日、菊竹さんとともに戦後日本の建築界をけん引してきた大分市出身の建築家磯崎新（いそざき しのぶ）さん(80)をはじめ関係者から悼む声が相次いだ。

【一面参照】

菊竹さんの出身地で、年に市文化功労章も贈っている。心から冥福を祈ります」とのコメントを出した。

「メタボリズム(新陳代謝)建築」の代表作の一つ、旧都城市民会館(宮崎県都城)は解



設計を担当した九州国立博物館の起工式に出席した生前の菊竹清訓さん
2002年4月10日

体危機にあつたが、文化的価値が認められ、一転、存続となった。保存運動に関わった同市の建築士、平川靖三

さん(50)は「革新的なデザインを打ち出し、多くの功績を残された。都城でも末永く建物を活用することで顕彰し続けることができれば」と話した。

晩年の代表作、九州国立博物館(福岡県太宰府市)は、周囲の森林景観がガラス壁に映り込むデザインが特長。三輪嘉六館長は「市民との共生、文化財保護など館が掲げ

る理念と、菊竹さんの芸術性がうまく融合した建物を設計していただいた。多くの方に何度も足を運んでもらっている要因には建物の魅力もある」とあらためて謝意を述べた。

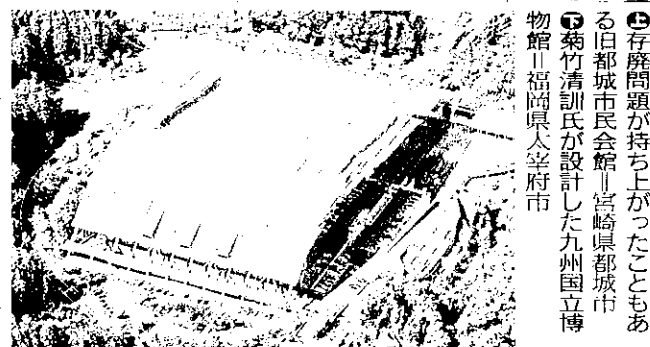
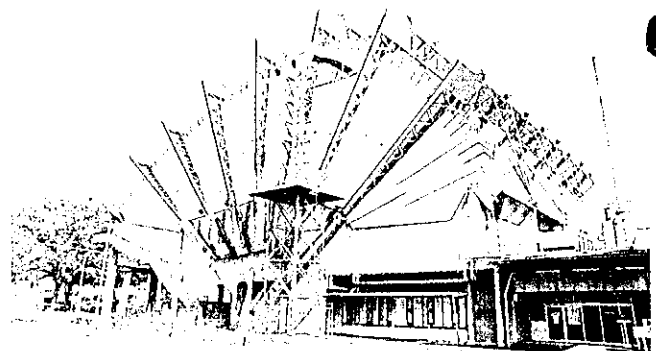
「北部九州の神話に通じる」

磯崎新さん談

菊竹さんは建築界において「メタボリズム(新陳代謝)」の思想の基本的骨組みをつくった人。初めて出会った1950 三さんの門下生だった。初めは半ばから、すでに新

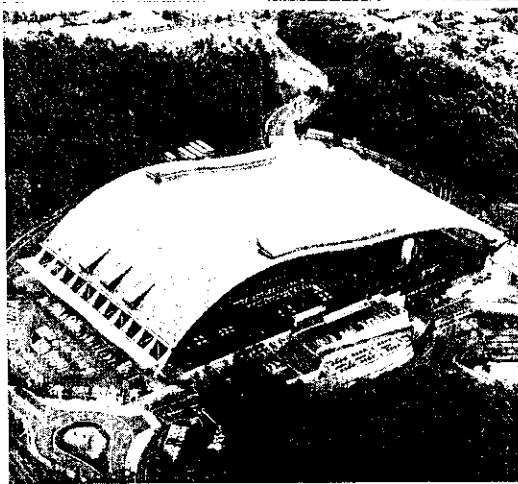
るような存在だった。お互い昭和一けた生まれ。終戦後、日本を再建していくときに、新しい日本の建築を造ろうとした世代だ。

初期の「スカイハウス」など、建物が地面と離れるという、それまでとは違う住み方を一番初めに提案した。空想ではない大きなビジョンで組み立てていく建築デザインに特長があった。また、久留米市民会館(福岡県)や旧都城市民会館(宮崎県)は新しいデザインとして注目された。(出身地の)北部九州の神話と菊竹さんの発想がつながっていたのだと感している。とても温厚で、他人の批判はしなかった。若いころからいろんなことが分かっている、僕が仕事で引掛かるようなことがあっても、広い目でサジェスト(示唆)してくれた。本当に残念でならない。(談)



① 存廃問題が持ち上がったこともある旧都城市民会館(宮崎県都城)
② 菊竹清訓氏が設計した九州国立博物館(福岡県太宰府市)

池田新報
2012.1.6



九州国立博物館（2008年、本社へりから）

菊竹清訓氏の主な建築作品

- 1958年 白邸「スカイハウス」（東京）
- 1963年 出雲大社「庁の舎(ちようのや)」
（島根県）⇒日本建築学会賞
群馬県館林市庁舎（当時）
- 1964年 ホテル「東光園」(鳥取県米子市)
- 1966年 都城市民会館（宮崎県）
- 1968年 萩市民館（山口県）
- 1975年 アクアポリス（沖縄海洋博）
- 1981年 セゾン現代美術館（長野県）
- 1988年 川崎市市民ミュージアム
- 1993年 江戸東京博物館
- 1999年 島根県立美術館
- 2004年 九州国立博物館

江戸東京博物館、北九州
 鶴された。
 の要素を取り込み、高く評
 山陰地方の風土や伝統建築
 テル東光園」（鳥取県）は、
 本建築学会賞）、64年の「ホ
 大社事務棟「庁の舎」（日
 る名作の一つ。63年の出雲
 で、戦後日本住宅を代表す
 換可能な家具や小部屋を取
 の柱で支えた屋根の下に交
 ハウス」（58年）は、四つ
 東京都内の自邸「スカイ

海上都市などの構想を提
 唱し、愛知万博の総合プロ
 デューサーも務めた建築
 家、菊竹清訓（きくたけ・
 きよのり）さんが昨年12月
 26日、心不全で死去してい
 たことが5日わかった。83
 年、心不全で死去してい
 タポリズム」（新陳代謝）

グルーブを結成、建築と都
 市の新陳代謝を目指す運動
 を展開。土地不足を解決す
 るため、人工土地による海
 上都市、塔状都市の構想を
 世界に発表した。
 早大建築学科卒。1960

菊竹清訓さん死去

メタポリズム建築 九州国博

83 歳



読者投稿
2012.1.6

メディアドーム、九州国立
 博物館なども設計。沖縄海
 洋博の海上都市「アクアポ
 リス」の空間意匠プロデュ
 ーサー、なら・シルクロー
 ド博や愛知万博のプロデュ
 ーサーも務めた。日本建築
 士会連合会名誉会長、アメ
 リカ建築家協会(AIA)
 特別名誉会員。著書に「代
 謝建築論」など。

建築光った「菊竹流」

九州各地に作品残す

戦後を代表する建築家の一人だった菊竹清訓さんは、九州・山口・沖縄にも数々の個性的な作品を残した。

▼1面参照

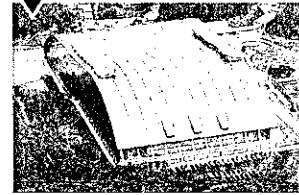
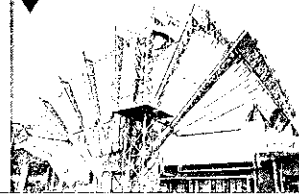
福岡県太宰府市の九州国立博物館は、周囲の自然

環境に溶け込む大胆な波形の屋根、メタリックな外観と木材をふんだんに使った内装の温かみなど、斬新な構造で話題を呼んだ。

三輪嘉六館長は「文化財

を守るという理念と設計側

1956年	石橋美術館【福岡県久留米市】
1966年	都城市民会館【宮崎県都城市】
▼	
1968年	萩市民館【山口県萩市】
1975年	アクアポリス【沖縄県本部町】
▼	
1988年	福岡市庁舎【福岡市】
1994年	久留米市庁舎【福岡県久留米市】
1998年	北九州メディアドーム【北九州市】
2001年	吉野ヶ里歴史公園センター【佐賀県吉野ヶ里町】
2004年	九州国立博物館【福岡県太宰府市】



菊竹清訓氏の九州・沖縄・山口の主な作品

の芸術的アイデアが融合した建物として、アジアの新しい博物館のモデルにもなっている。博物館側の意向をくみ入れていただき使い勝手もよく、改めて感謝したい」と語った。

出身地の久留米市では、市庁舎を始め旧国鉄久留米駅、石橋美術館、市民会館などを手がけた。榎原利則市長は「世界的でありなが

ら、市民にとつて身近な建築家でもあった。偉大な郷土の先達のご冥福をお祈りする」とのコメントを発表した。